

アグリビジネスへの取組み

(金融機関名)東北銀行

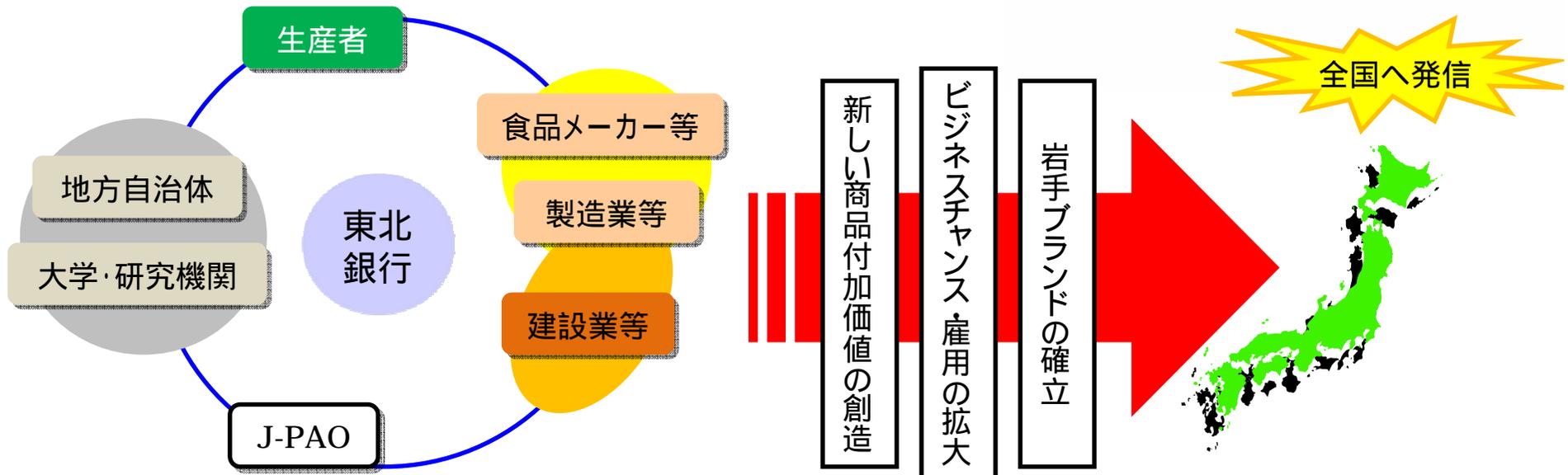
<p>1. 動機(経緯)</p>	<p>岩手県では、これまで建設業や製造業が経済成長を牽引してきたが、90年代の景気後退とともに公共工事の削減、産業空洞化など、地域経済は厳しい状況にあった。基幹産業と呼べるものがなかった本県において、地域経済を活性化させ、地方銀行として貢献できるものは何かを考えた時、当行は「アグリビジネス」を選択し、経営の柱に据えることにした。</p> <p>全国と比して第一次産業人口が多い岩手県において、「アグリビジネス」の支援は、地域経済の活性化と雇用機会の創出に不可欠なものと考えた。農・林・水産の各資源に恵まれた県土にあっては、今後さらに発展・成長する可能性を十分に秘めている。そこで当行としては、岩手県の基幹産業である第一次産業と他産業との六次産業化を、持続可能な取組みとして積極的に支援していく。</p> <p>平成17年1月 地域密着型金融の柱に“アグリビジネス支援”を位置づけ 平成17年3月 農林漁業金融公庫と「業務協力に関する覚書」を締結。 平成17年10月 アグリビジネス専担部署となる地域戦略部を設置。 平成18年10月 同部内ニュービジネス推進室に組織改編。</p>															
<p>2. 概要</p>	<p>生産者の加工部門立ち上げ、小売・外食産業の生産地提携、クラスターネットワークなど、各産業が交わることで地域資源を最大限に発揮する新たなビジネスモデルの確立を支援していく。素材としては優秀な岩手県産品を加工・商品化し、付加価値を乗せて全国に発信できるよう、「地域ブランド」創造に向けた取組みを行っている。</p> <p>行政機関との連携：商談会や相談会、食産業クラスターネットワークへの参加 農林漁業金融公庫との連携：協調融資の実行、シンポジウム・研修への参加 行内の取組み強化：本部帯同訪問による顧客ニーズの収集、勉強会や行内報による意識改革・業界情報の周知 販路拡大支援：「いわて食のマッチングフェア」への参画、フーズインフォマートの活用</p>															
<p>3. 成果(効果)</p>	<p>アグリセミナーの実施 ・農業者に限らず様々な業種から参加していただき、情報共有の場、ビジネスマッチングの機会創出として機能 ・過去5回の開催で、延べ約460社の参加 コンサルティングの積み上げ (平成19年度1月末現在)</p> <table border="1" data-bbox="488 1177 1055 1276"> <thead> <tr> <th></th> <th>H.17</th> <th>H.18</th> <th>H.19</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>40先</td> <td>53先</td> <td>110先</td> <td>203先</td> </tr> <tr> <td>実行金額</td> <td>8億</td> <td>9億</td> <td>23億</td> <td>40億</td> </tr> </tbody> </table>		H.17	H.18	H.19	計	件数	40先	53先	110先	203先	実行金額	8億	9億	23億	40億
	H.17	H.18	H.19	計												
件数	40先	53先	110先	203先												
実行金額	8億	9億	23億	40億												
<p>4. 今後の予定(課題)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・やる気のある経営者を支援 コンサルティング、資金の相談(補助金、制度融資など)、販路支援 ・産学官金連携の活用 商品開発、パッケージへのアドバイス ・J-PAOとの連携 販路支援、経営相談、新規就農支援 															

目指すビジネスモデル

岩手県の基幹産業である第一次産業の更なる発展
他産業との連携(六次産業化)で地域資源の魅力を最大限に発揮

- コンサルティングと融資によって、生産者の経営をサポート
- 販路支援、各産業とのビジネスマッチング
 - 生産者を食品メーカー、小売店等につなぐ販路支援
 - 建設業等の農業新規参入を支援
 - J-PAOによる経営コンサルティング、販路支援
 - 産学官金連携による商品開発
 - 「民」と「官」のコラボレーションによる地域ブランド化

はじまっています「アグリビジネス支援」
agrivision
アグリビジョン



当行におけるビジネスマッチング事例

➤ 農業法人と菓子メーカーの原料調達のマッチング

- 当菓子メーカーは従来北海道産の小麦で生産していたが、岩手県産の小麦での生産を目指し、生産者を探していた。そのため弊行に生産者について相談があった。
- 県産へのこだわりを叶えるため、弊行では県内でも有数の規模を誇る農業法人とマッチングを図り、小麦栽培に取り組むことになった。
- 当農業法人では指定品種の栽培が初の試みだったため、農業普及センターと試験栽培を兼ねてH.18年作付。
- H.19年夏に収穫。品質において1等級を獲得。製粉業者を経て菓子メーカーへ納入する運びとなった。尚、小麦の生産は今年度も行われている。

